

# 2020年度活動の概要

## TOPICS 01

### 食品健康影響評価

新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、委員会を32回、専門調査会等を111回(うち105回はウェブ会議)開催の上、調査審議を実施しました。添加物、農薬、動物用医薬品を始めとする90件について、厚生労働省、農林水産省及び消費者庁から評価要請があり、前年度までに要請があったものを含めて、2020年度は98件について評価結果を通知しました。また、食品健康影響評価の案件ごとの整合性を確保し、透明かつ円滑な調査審議の実施のため、評価指針の改訂を2件、手引きの取りまとめを1件行いました。加えて、農薬専門調査会を5つの専門調査会に組み替え、農薬の評価体制を整備しました。

## TOPICS 02

### リスクコミュニケーション

新型コロナウイルス感染症への対応として、2020年4月、ウェブサイトに「新型コロナウイルス感染症と食品について」というページを新設しました。WHOなどの公的機関が発表している科学的根拠に基づく正確な情報を集約し、食品やその包装を介して新型コロナウイルスに感染したという科学的情報はないことや、手洗いなどの感染予防策を紹介しました。

また、2020年秋ごろから国内各地で高病原性鳥インフルエンザの発生が相次いで確認され(2021年3月末日現

在国内で52例確認)、発生の都度、ウェブサイトや公式Facebook、メールマガジンにおいて、「現状では、我が国で家きんの肉や卵を食べることにより、人が鳥インフルエンザウイルスに感染する可能性はない」と考えていることを情報発信しました。

## TOPICS 03

### 研究・調査事業

研究・調査について、22課題を実施し、2021年度に実施する5課題を食品安全委員会で決定しました。また、研究成果の普及及び活用の促進を目的に、2019年度に終了した研究課題(9課題)の成果報告書を公開するとともに、2つの課題を対象として、成果発表会を開催しました。

## TOPICS 04

### 国際協調

新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた専門家会合等については、多くが来年以降に延期となりました。一部についてはウェブ会議システムを利用することにより開催されたので、FAO/WHO合同食品添加物専門家会議、経済開発協力機構(OECD)農薬作業部会等に参加して国際的な議論に貢献しました。また、英文電子ジャーナル“Food Safety - The Official Journal of the Food Safety Commission of Japan”に、新たに13本の論文を掲載しました。

## 2020年度に終了した食品健康影響評価の件数

● 添加物	8件	● 微生物・ウイルス	2件	● 肥料・飼料等	16件
● 農薬	39件	● プリオン	4件	● 薬剤耐性菌	2件
● 動物用医薬品	15件	● 遺伝子組換え食品等	10件	<b>合計98件</b>	
● 器具・容器包装	1件	● 新開発食品	1件		

(2020年度末までの累計 **2,955**件)